

## 令和 3 年度 第 3 回千葉県地域自立支援協議会運営事務局会議 会議録(概要)

- 1 開催日時：令和 3 年 9 月 30 日(木)14：00～16：00
- 2 開催方法：オンライン会議  
検討課題について事前アンケートを取り、事務局にて議題を選出した。
- 3 参加者：中央区基幹相談支援センター 伊藤氏  
花見川区基幹相談支援センター 近藤氏  
稲毛区基幹相談支援センター 染谷氏  
若葉区基幹相談支援センター 伊藤氏  
緑区基幹相談支援センター 菅野氏  
地域生活支援拠点コーディネーター 中野学園 江澤氏  
千葉県ひきこもり地域支援センター 平田氏  
中央区高齢障害支援課 障害支援班 荒井氏  
障害者自立支援課 今野氏、越川氏  
(事務局) 千葉県障害福祉サービス課 窄口氏、谷口氏、川口氏  
美浜区障害者基幹相談支援センター 石野
- 4 議 事：
  - (1) 開会
  - (2) 第 17 回千葉県地域自立支援協議会全体会議録の報告について
  - (3) 知的障害のある方の特性に関する普及啓発について  
(事前アンケート・検討課題より)
  - (4) 基幹相談支援センターの計画相談支援の兼務状況について  
(全体会議事要旨 2 (1)⑤より)
  - (5) 8050 問題の取組について(事前アンケート・検討課題より)
  - (6) 今後の課題として
  - (7) 閉会
- 5 資料
  - (1) 第 17 回千葉県地域自立支援協議会全体会議録(書面開催)
  - (2) 令和 3 年度第 3 回 千葉県地域自立支援協議会運営事務局会議  
アンケート結果

**【開会 14時】**

美浜区基幹 石野：

令和3年度第3回千葉市自立支援協議会運営事務局会議をオンラインにて始めさせていただきます。今回、司会進行を務めます美浜区障害者基幹相談支援センターの石野です。よろしくお願い致します。

本会議は議事録作成のため、音声を保存させていただきます。予めご了承下さい。

今回は、事前に次第に関するアンケートを皆様からいただき、そのなかから議題の方を障害福祉サービス課さんと協議し、決定させていただきました。

**【議事(2) 第17回千葉市自立支援協議会全体会議の報告について】**

千葉市障害福祉サービス課 窄口氏：

千葉市障害福祉サービス課 窄口です。よろしくお願い致します。全体会ですが、今回コロナということもあって書面開催をさせていただきました。今回の運営事務局会議の委員さんも全体会委員も兼ねている方がほとんどかと思えます。事前に資料も目を通していただいているかと思えますので、簡単に概要を説明させていただきます。

ご意見ですが、8月に皆さんに書類を送らせていただき、8月中に書類を回収し、それを取りまとめた物が今石野さんの方でも画面に出していただいている議事要旨として取りまとめさせていただいております。

内容としては主に、昨年度10月に基幹相談支援センターの開設、生活支援拠点の2箇所増設、自立支援協議会の組織の見直しなどをさせていただいたので、そこがメインになってきてはいます。それと日中サービス支援型グループホームの運営状況ということで意見をいただいております。委員の皆様から非常に多くの貴重なご意見、中身のある意見をいただき、感謝しております。

内容ですが、特に基幹相談支援センターについては非常に評価する意見、好意的な意見が多くあったように思います。一方で課題の指摘も多くありましたので、今後できるところから一歩ずつ取り組んでいく必要を感じております。議事要旨に関しては先ほども申し上げた通り、一通り目を通していただいていると思いますので、一つ一つの説明は省略させていただきますけれども、引き続き千葉市の現状に関する情報共有や課題の協議についてご協力をいただければと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

私からは簡単になりますが、以上となります。よろしくお願い致します。

石野：窄口さん、ありがとうございます。皆さんから何かご質問などありましたら  
お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。  
特にないようであれば、このまま進めさせていただきます。

### 【議事(3) 知的障害のある方の特性に関する普及啓発について】

石野： 今回の会議の開催にあたり、グーグルフォームというアンケートを取らせて  
頂き、多くの方からさまざまなご意見をいただきました。その中から今回、  
この件に関し、検討させていただきます。  
まず、私の方から概要を説明させていただき、その後実際に関わられている  
方々より詳細のご説明をいただき、意見交換としたいと思います。  
宜しくお願い致します。  
(事例概要説明)

千葉県障害者自立支援課 越川氏：

聞こえますでしょうか。障害者自立支援課の越川と申します。

トイレは駅のロータリーに併設しているトイレだったのですが、トイレの  
中でズボンをおろして小用をしているところが外から見えてしまう作りな  
んです。防犯の都合もあって完全に目隠しができないという状況で、数日に  
渡って一般の匿名の方から”トイレ付近で下半身を露出している人がいる”  
という通報が警察だったり JR の駅の方に立て続けにあったと。それが数日  
続いた上で、「今日も今、そこにいます」という話があり、JR の職員 3 名が  
現場を確認しに行ったところ、本人は小用が済んでいた。電車にこだわりが  
ある方だったので、フェンスにしがみつく形で線路を見ていた。そのため、  
通報した人以外は彼が下半身を露出しているのを見ていなかった。それにも  
関わらず、受け答えがおかしかったという理由で左右の手を掴み、首根っ  
こを押さえつけ、交番まで連れて行った。警察の方でも受け答えがちゃんと  
していないということで色々と話を聞かれることとなってしまった。  
通所施設の送迎に使っている駅で他の利用者のご家族からも「この子は知  
的障害があるから、意思疎通が難しいんですよ」と伝えたがそれも聞き入れ  
てもらえなかった。そういったことから警察や JR の方に何とか周知とい  
うか理解をしてもらえないかということで話が始まりました。

ご両親としては、だから彼らを罰してくれというわけではなく、これをき  
かけにいろいろなところに理解が進むと良いよね、という意見でいてくだ  
さることもあり、私を含め色々なところで啓発ができると良いと考えてい  
ます。

足りないところも多いと思うので、伊藤さん、補足をお願いできると助かります。

中央区基幹 伊藤氏：

具体的にこの件について話し合いをした時にご家族と千葉市育成会さんや、千葉県障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例の広域相談員をしている本間先生もお越しになっており、駅をもう少し使いやすくしていかないとなかなか厳しいよねと言う話もあって。毎年、これまでは条例の関係で啓発発動をしていたようですが、この数年コロナで取り組めていなかったのも、千葉県としてもチラシを配るなどに人員を出すことは可能なので、コロナが収まり次第できるように千葉市、県、我々で取り組んでいこうという話が出ているところです。

今回議題として挙げた理由として、他のところでそういった話があるか伺いたいのと、啓発はとても大切なので何箇所かでやりたいと県の方も言っていたので、他にもそういった必要性があるのであれば一緒に行いたいと思ったところです。以上です。

石野： それでは伊藤さんからあった同じような事案の対応をされた経験などご意見、ご発言をいただきたいのですがいかがでしょうか。

稲毛区基幹 染谷氏：

同じようなことがあったわけではないのですが、育成会が法人なので知的障害の方が多く利用されています。特に生活介護を利用されている40代50代の方はズボンを下までおろしてされている方少なくはないです。それは小さい頃からの習慣になっていることもあると思いますが、私たちも外出支援の際に、一般の方から驚きの表情で見られることがあります。ご本人が良ければズボンを上げる支援をさせていただいています。ふらるの中で放課後等デイでは小さい頃からの習慣も大切ということで、ズボンを下げない形ですることもプログラムでしている。家族の協力や学校の協力も必要かと思います。

警察への対応の理解も必要だが、当事者も含め双方から取り組んでいかなければと伝えなければならないと考えています。

石野氏： 非常に建設的なお話でした。警察の方だけでなく、小さいころからのスキルを得ることも考えられるということですね。その他いかがでしょうか。

花見川区基幹 近藤氏：

当法人も知的障害が母体であるので、バスを使用した外出の際、パーキングエリアで同様のことはあります。家庭で取り組んでいただきたい気持ちも希望としてありますが、小用の便器はなかなかご家庭にはないですね。外で公衆のトイレを使う時どのように習慣づけるかというのはご家族が外出の機会を持ってなかったり、重度の方などの場合は外出先での習慣づけはなかなか難しいと感じていますが、一方で小さい時から食べた後はテーブルを拭くなど習慣付いている方もいらっしゃると思いますので、やはり慣れていくということも同時に必要かなと。そういった機会をどういう風に作るかというところが考えなくてはいけない一つではあるかと思えます。

あとは啓発という時に、どういう形でどなたに啓発していくか。いわゆる社会に対してということも一つでしょうし、交通機関とか警察の方に対して個別にというか、部門別というか。やはり場面によってどういう風に関わるか。今回に関してはJRの方だとか駅や警察の方がもう少し理解があれば本人の様子から、精神の方は基幹に連絡してもらおうことと同様に手助けすることも、なんというか警察の方にも踏み込んで我々の存在が認知されていけばあったのかもしれないと思ったので、どなたにどういう形で啓発していくかという方法も考えていくとヒントになるかなと感じています。

緑区基幹 菅野氏

啓発は警察署にかなり前に配布したことがありました。全国育成会が10年以内に配布していたと思う。もう一つは、みなさん幼少期からの取り組みとあるが、私は相談にきたお母さんには必ず言います。小用機は自宅にはない。お母さんは汚れたくないと話す。そうしたら、個室でできるよう育てなさいと伝えている。周りに分かれというのはこの人にとって失礼だよと。できないのではなくてやらせてきていないというのもあると思うから、一定の年齢になったらちゃんと役割分担なんだよねという話はしているが、多分両面ないといけないとは思いますが・・・

恐らく、啓発の資料は配布しているはずなのだけれど・・・

中野学園 江澤氏：

恐らく皆さん記憶されているかと思いますが、昔佐賀県で、授産施設に通う男性が蛇行で自転車を運転していて職質にあった。本人は警察に声をかけられたものだからそのまま逃走しようとした。それを数人に取り押さえられて、窒息死した事件がありました。それは明らかに警察側の異常対応ということですごく問題になった。やっぱり知的障害のある方の特性として、知らない人に

声をかけられたら特に警察なんか声をかけられたら別に後ろめたさがなくともとっさに対応してしまう。全国育成会が冊子をつくられて、それを全国の警察に配布したのですが、その冊子を使用して、新京成の運転手、車掌さんを対象にお話をさせていただきました。合わせて松戸のコンビニエンスストア協会のような横の繋がりでもコンビニプロジェクトを作って、店長さん何名かにも冊子を元に知的障害者の特性ということでお話をさせていただきました。それが残念ながら継続されていないこと、十分な理解になっていないんだと思います。

冊子を再度利用して、我々が再度足を運ぶのも手ではないか。トイレのことは個別の視点であるが、全体的な取り組みではそういった視点が必要ではないかと感じます。

石野 : (共有画面にて、これまでの意見をまとめる)

個人的には特別支援学校と連携していくことも必要ではないかと感じた。普及啓発は既に始まっている。具体的なアクションをこの場で決めるのか、また別の場を作るのか。進め方についてご意見をいただきたい。

若葉基幹 伊藤氏

若葉区基幹の伊藤です。よろしくお願ひ致します。皆様のご意見を伺い勉強になりました。啓発に関してチラシの配布やご本人へのスキルをつけることに加えて、警察側、JR側の理屈(通報があったら捕まえないといけないなど)に関して知りたい。手帳を持っていけば帰して下さるのか。

福祉サービス課 越川氏 :

今回の方のご家族の意見を含めてですが、私たちとしても障害者だから許してほしいというわけではなく、家族もそこは理解をしてくださっている。

先ほど中野学園の方が話された佐賀県の事件にも触れるような方でして、ちょうど判決がでたばかりのタイミングだった。警察官は職務上やむを得ないということで無罪であったが、主文の中で「ただし、もっと障害に対する理解をするように。警察学校などで授業でやるべきだ」と宣言されている状態。それが出たばかりだったにも関わらずその態度はどうだったのか。高圧的な態度、毅然とした対応が恐怖であり、口頭でなく文字でなら伝わる子もいるということが理解されれば嬉しく、そこはサポートできると考えています。先程おっしゃっていた育成会の作成された資料を一部取り寄せているところで、中央署に資料を渡しに行く日程を組む予定で話が進みだしています。

花見川基幹 近藤氏：

特性を理解していただくこと、先程若葉基幹の伊藤さんが言っていたように警察官側がどう終結していくか。なにをしていたか本人に聞くすべに関し、ヘルプカードのことも含め誰が間にあれば説明ができるか。基幹も含め、その人その人の担当する人が個別の支援が必要なのではないでしょうか。

中央基幹 伊藤氏

今回、ご家族が善意の女性が「変質者か障害者かわからず通報してしまった」と言っていたとご家族が話されていきました。ヘルプカードもつけても取ってしまい、トイレも個室と伝えていても実際は埋まっていて使えない。トイレに行って電車を見て送迎車に乗るというルーティンがある。それを今、東口のトイレに変えることなど自助努力していても周りに理解をしてもらえないことに対して、ご家族は色々と思いを持っている。今も毎日母親が駅に付き添って後ろから見る対応をされている。

一つに JR や警察の方に啓発はじりじりと動いていけるように、警察署には自立支援課さんが動いてくれていて、JR や京成には県庁からの働きかけをお願いしているところです。

啓発に関しては、県としては条例のチラシやヘルプカードとかそういうものを配るものらしくチーバくんを借りることもできる。それだけではすぐ変わるといわけではないと思うけど、今回の駅は施設の送迎ルートで多くの知的障害の方が使われているのも事実。一方で痴漢の被害も多く、そういった事案が起きやすいところかと思えます。他の基幹にも啓発の際には力を貸していただきたいと思えます。

美浜区基幹 石野氏：

今伊藤さんから発言があった通り、それぞれの方から意見があり動き始めたということ、啓発に関してはマンパワーが必要という話もありました。

外見的にわかりづらい、精神・発達障害の方への取り組み。基幹が求められている手帳の所持も含まれない方への対応にも共通しているかと思えます。

普及啓発へのバックアップと形にする方法について、啓発に関して千葉市の方のご意見はどうか。また運営事務局会議としての対応はどうか。形にするプロセスはどうしていけば良いかご意見をいただければと思います。



窄口氏：

基幹は地域づくりをする役割があるので、暮らしやすい地域づくりになるので効果的な方法を検討し啓発をしていくのは良いかと思います。基幹の方でやりやすいやり方で進めていただければ良いかと思います。

石野氏：

地域づくりでの基幹の役割として期待いただいているということにとらえさせていただきました。基幹の会議や運営事務局会議でも進捗の報告をさせていただきながら、具体的に進めていければ良いかと思います。今日のところはここで締めさせていただきます。次の議題に移らせていただきます。

#### 【議事(4)各区基幹相談支援センターの計画相談支援の兼務の近況について】

石野氏：

窄口さんからあった議事録の内容で取り上げるべき事項も多くあったが、協議事項の2-1-⑤のところにある、兼務解消に関して各基幹より取り組み状況を教えていただきたい。

稲毛基幹 染谷氏：

相談員4名、そのうち3名が兼務。昨年10月は300ケース。今は156ケースで約半分くらいで当初の計画よりは遅れているような状態です。法人外にひきつづく予定もあるが、見つからない方もいます。

稲毛区の計画相談事業所はほぼひきつげる事業所はないので、他区への依頼もしていく形になるかと思います。

若葉区基幹 伊藤氏：

若葉区は4名の相談員と、非常勤の相談員が1名がおります。2名が計画相談の兼務をしており合計で60ケースの担当しています。昨年10月に相談員が計画専従となっていて、移行しているところで、90件ほどあったのが60件になったところで減ってきてはいる状況です。引き続き、移行していく予定にしています。



花見川基幹 近藤氏：

私のところは、基幹ができるときに相談員4名の内、1名を兼務としました。その兼務のものが3月末で産休に入り畑町ガーデンの相談事業所に異動となり、ケースも移管して、基幹は4名とも専従となりました。そのため基幹としては計画相談のケースは0名ですが、相談事業所としての畑町ガーデンがひっ迫している状況です。3名の相談員のうち1名が産休ということとなっていて、増員に向け県の研修を2名受けさせています。しかし、法人内の兼務となるのでどれだけのケースを持てるかが区の相談員にどれだけ貢献できるかが課題だと思っています。

中野 菅野氏

4人中3人が兼務。ケース数は断トツで500件です。ほぼこどもで子どもは見立ても必要だし、専門性もあり、療育が必要な子どもを見れる事業所が少なく、1人事業所も多い。また、県リハなら医療ケアなど、種別で分かれてしまう。スキルをどう伝えていくかが課題になっています。それ以外も新しい方もセルフでバックアップも30～40ケースを担当しています。移管は大変難しい状態です

中央基幹 伊藤氏

兼務はありますが相談員の内約2名です。件数は40件あるかどうかだと思います。法人本部に大分引きついているので、計画相談のみで動くことはほぼない形になっています。

美浜基幹 石野氏：

既存のケースの移管はできていません。背景としては区内の事業所が1人事業所が多くなっており、新規で相談が来る方に関してはうちの事業所でセルフマネジメントができそうかどうかアセスメントしています。例えば虐待などリスクがある児童の方に関しては区内の相談事業所に個別に相談をさせていただき、新規を受けて頂くようしています。

相談員3名のうち、相談支援専門員が1名しかいないので、法人内の3名の職員に初任者研修を受けさせています。12月には取得できる予定ですが、法人の考えとしては計画相談専従の職員をつくる計画をしています。また、求人で職員を募集する動きを取っていて、年度途中でも積極的に採用する予定にしています。普段のスキル、アセスメントの見立てをどう後進に伝えていくかが課題となっています。現状は以上となります

各区からのお話のなかで、相談事業所が増えている感じがなく引継ぎ先に困っているという意見が散見されますが、今年度の相談事業所の新設状況等、補助金の活用など福祉サービス課からお伝え頂ける範囲で教えていただけますでしょうか。

福祉サービス課 窄口氏

まず、計画相談事業所の推移はあまり増えていない状態です。補助金も開始はしたが多少お問い合わせや申請はあるが、すごく増えているわけではない。人を増やしたいという事業所はあるが、なかなか求人しても来ないという話も聞いている。

本当は外の事業所が増えて移管できればよかったです。なかなか進まないなかで兼務の移管の期限が半年に迫っている状態。お話を伺ったうえでも難しいとは思っておりますが、やるとしたら外に出すか法人内で求人するかしないという感じはあります。法人内でできる範囲で努力はお願いしたいがそれでも限界があるかと思しますので、できない場合の対応は考えていきたいと思っています。現状は移管に向け、引き続き努力をお願いしたいと思っています。

石野氏：

それぞれの区の相談支援事業所の数や人数に関して、法人としてもさまざまな事業展開をしているところが多いので人材を充てるのが難しいと言う実情もお話がでていますし、ご理解いただいたということと、サービス課さんとしてもできなかったときの対策を検討することも視野にありながら、基幹相談支援センターでも努力を続けていくこと、それが同時進行していくということが共有できたかと思えます。

花見川区基幹 近藤氏：

2点お伝えしたいが、1点目は新しい事業所は多少増えているが、申し訳ないがスキルのどうかなということがある。

後方支援はしたいが、移管の依頼することで基幹の負担が増えてしまっていると正直感じている。数の問題だけでなく、スキルアップ、フォローをどうして行くかという課題があると思います。

2点目は区とセルフプランの対象について相談をしています。就労系や児童で事業所が決まっている方に関してはセルフでお願いをするなど、区と整理していかなければならないと考えており、取り組んでいます。

美浜区基幹 石野氏：

新規相談事業所の後方支援と、セルフプランの判断の難しさについてお話を頂きました。ご意見、取り組みがあればお願いいたします。

稲毛区基幹 染谷氏：

稲毛区でもセルフプランについて高齢障害支援課と相談しており、就労系や児童で家族がしっかりされていてサービスも使うところが決まっている方はセルフと共通認識をしています。

中央区基幹 伊藤氏：

中央も同じような状況で、相談事業所をつけられない前提で、つける人を厳選する状況になっていると思います。仕様書に入っているモニタリングの結果検証についてガイドラインも出たので、今年度本当なら検討しなければならない。質の向上とか、我々の質もそうだがモニタリングの結果検証も必要だと思っていて、それは事業所でやるか集団に対してやるか大きく分けて2つやり方がある。そのあたりを少しずつ取り組んでいく必要があると思います。意見交換会がきっとグループスーパービジョンみたいな感じで、伴走支援みたいな感じで個別ケースに伴走する事業所モデルだったりとかする感じになると思うんですけど、そのあたりを今度基幹相談支援センター研修も全国であったりするので、そこで学ぼうと考えているが、皆さんのところでもグループスーパービジョンのような取り組みってモニタリング検証に入れていくとしてどう考えているか、そこらへんをちょっと聞きたいなと思ってました。

美浜区基幹 石野氏

モニタリングの検証の部分というのは国の相談支援専門員協会の研修のことでよろしかったでしょうか？

中央区基幹 伊藤氏：

それはあるんですが、今年度の頭にモニタリングの結果検証が障害福祉サービス課さんの方から来たものがあるかと思うんですが、あれって全国的にも珍しいみたいなんです。千葉市って独自だと思ったのでそこは意識していかなければならない、どの程度求めているかっていうものもあるかと思うんですけど、いわゆるグループスーパービジョンとかをしながら質の向上をしていくというのが意見交換会の場なのかなと思うとそこが私たちもやり方ができていないなと思っていて、皆さんどんなかんじかなと相談というか提言です。

千葉市 窄口氏：

モニタリングの結果検証に関しては国から通知が出ていてそれを通知に入れさせていただいていますが、千葉市として具体的なものが決められているわけではないので現場の方でこういった形で行うのが望まれるのかゆっくり考えていっても良いのかなと思います。確かに相談の質は大切に求められています。時折、相談事業所の苦情が入ることもあるので少しずつでも高めていけたら良いのかなと思っています。

美浜区基幹 石野氏：

一定の基準が求められるところと、現場のなかで実践ということになると枠組みをきっかり作るというよりはできることから実践していくことを期待されているという受けとめでよいかなと思います。

先ほどのセルフプランの取り扱いについて、保健福祉センターの方と共通認識を持つ場を作り、トライアーズが出来てきているように感じているのですが、美浜区ではできていないんですね。私たちもどうしたら良いかと思いながらも電話で新規の問い合わせがあった際には都度検討するような形で良くないと思っていたんです。具体的にはどのようにされているのか参考に教えて頂ければ有難いのですが・

緑区基幹 菅野氏：

セルフプランですよね？セルフプランは必ず面談をします。面談をしてお母さん、相談者としっかり話した上で、セルフプランのプラスはこれ、マイナスはこういうことというのを説明した上でなおかつこのお母さんはできるだろうという判断がないと勧めません。区の方にはセルフでお話をしましたので行かれるのでよろしくお願ひしますといいながら、全部リストアップして半年後にどうなってますかとフォローをしていますけどね。必ず会います。

花見川区基幹 近藤氏：

稲毛の染谷さんから伺って、稲毛区は担当が分散、花見川区は児童は児童と担当が決まっている。最初に窓口に行くと相談員をつけて下さいとどうしても言われますよね。セルフでやるということが基幹と区で決まっていなくて相談者にとってはたらい回しになってしまうと思います。基幹のワンストップ機能の役目をもっているのに、たらいまわしにしてしまうと基幹全体のマイナスイメージになってしまうと。セルフプランが可能と判断しましたという形で区と連携をとっています。

稲毛区基幹 染谷氏：

稲毛区の高齢障害支援課とは年間4回話をすると日程も決めています。内容の細かいところまでは決めていませんが、回の前に議題を話し合っ決めていいいます。その中で、前回セルフプランの統一をしたところです。先ほどモニタリングの検証という話もありましたけど、今後セルフプランの検証もやっていかなければならないという中で、次回11月は個人情報の関係でどこまでできるかわかりませんが、区の方に上がってきたセルフから計画につないだ方が良いケースがあった場合にはそういった場で話しましょうということになっています。

あと、先ほど菅野さんからのお話もありましたが、セルフの方に会いそこで判断することが理想ですが、そこまで対応がしきれていないのが実情です。電話での確認で判断し、対応しています。電話でセルフが大丈夫だろうという方に関しては、区の方にお伝えしているような状況です。

石野氏：皆さんの取り組みを参考にできるところから進めていきたいと思います。

後方支援に関してはあまり深堀できませんでしたが、いろいろとお話しを伺うことができました。ありがとうございました。

#### 【議事(5)各区基幹相談支援センターより8050問題について】

美浜区基幹 石野氏：

事前アンケートの検討課題のなかで、8050に関するものが各区の地域部会のなかで共通しているため話ができればよいというものがありませんでした。時間は少なくなっているのですが、本日ひきこもり支援センターの平田さんにお越し頂いておりますので最近の相談の傾向、実践、課題などをご発言いただき共有できればと思いますがいかがでしょうか。

ひきこもりセンター平田氏：

8050のケースはとても多くてですね。実際、基幹さんと一緒に動いているケースもあります。やはり8050問題は親御さんや兄弟に意識がないとでてこないんですね。1番の課題はその変かなと感じています。8050から6060で兄弟からの相談も増えています。相談につなげるということでは基幹さんや包括さんの方が生の情報を持っているかもしれません。うちに直接来るときには、かなり遅い方もいらっしゃいます。もちろん30代の方の相談もありますが、8050になってしまうと、なかなか解決というよりかは、50がこれからどう生きて行ったらよいかという話になるので、もともとは障害ではなくても長期間のひきこもりで手帳取得や通院をしたりということで基幹さんとの連携はすごくさせていただきたいケースが多いと思っています。できれば一緒に伴奏しながら本人や家族の特性であったり、私たちとしては、50の方の社会参加や最終的な自立の方策といったところを一緒に考えることが役割かなと思っておりますので、8050という状態で来るケースはかなり動かしづらいケース。親御さんどちらかに何かがあつていよいよ決心して動くというケースが多くなっています。

8050に関してはさらに連携させていただきたい。自宅訪問というところでは、了解をどう頂くか、うちとしては本人が会いたくないと話すところで会いたくないということもありますので、ご本人の良いタイミングで会えれば良いと考えています。傾向としては本人が60になっているケースも出始めているのはやはり支援がどんどん難しくなっていくなという印象です。以上です。

美浜区基幹 石野氏：

連絡が来る方はもう少し早く介入したいと感じるケースが多いということだと思います。早いうちにどうそういった方々を拾っていけるかということですが次回以降協議をしていき、全市的に取り組んでいければと思います。

ご質問があればお願い致します。

稲毛区基幹 染谷氏：

12月の稲毛区の地域部会で平田さんにお越しいただき、メンバーにもひきこもりセンターを知っていただくことを目的にお話しいただく予定にしています。相談支援意見交換会と迷いましたが、サービス利用前の方も多いいと思ったので民生委員の方など地域の方に知っていただけるように地域部会にお越しいただくとしました。

美浜区基幹 石野氏：

こういったところに強み・考えをもっているセンターなのをお互いに知ることとはとても大切なので、私の区も含め、共通して活発に連携していけると良いと思いました。

【議事(6)今後の課題として】

美浜区基幹 石野氏：

時間の関係で割愛させていただきます。

【議事(7)閉会】

美浜区基幹 石野氏：

事前アンケートで頂いたなかですべて取り上げることができずに申し訳ありませんでした。自立支援協議会を見えるようにするということがずっと課題でやっていかなければならないことかと思っておりますので、今後も協議していければと思います。よろしくお願い致します。

本日本日予定していたものは以上となります。今回オンラインの開催という事で不手際もあり申し訳ありませんでした。またグーグルフォームでアンケートを取らせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

最後何かありましたらお願い致します。

中央区基幹 伊藤氏

次回事務局を担当するのですが、オンラインの出席者の参加が少ないことが気になっています。パソコンが用意できないということであれば多くの意見が取りにくいと思い、場所の設定など考えないと思っているのですが、これだけ欠席が多い理由を教えてください。

美浜区基幹 石野氏：

開催にあたり、事務局の案内がもう少し早くできればよかったと思っています。窄口氏とも前回書面会議の後に協議をしていましたが、私の方の発信が9月10日に最初に発信をしたこともあり、そのあたりが早くできればよかったと思います。問い合わせとして機器が使えないため不参加というお話は聞いていない。早めに案内をするということでカバーできるかと思っています。窄口さん何かご意見いかがでしょうか。



千葉市障害福祉サービス課 窄口氏：

今回手違い届いていないことがあったのか案内を早めに行うことは必要と思います。今回、案内が届いていないことがあったのでしょうか。

美浜区基幹 石野氏：

開封確認をするメールでなかったのですが、いただいたメールアドレスに送付されていて、エラーにもならなかったので送付はできていると考えているが、正確には判断がつかない。次回は開封確認ができる方法を検討していきたいと思いました。反省点に関しては引継ぎをさせていただきたいと思います。

千葉市障害福祉サービス課 窄口氏：

あとはグーグルフォームが千葉市のパソコンの入力が実はできず、スマートフォンに転送して行った。もしかしたら他の事業所もそういったところがあり、行き違いがあったかもしれません。出席の確認の方法も他の手段もOKにするなど選択肢を広げるのも良いと思いました。千葉市もIT課もパソコンを準備できるが、パソコンが埋まってしまう場合もあるので1か月前にはおそらく準備できるかと思いますので、教えていただきたい

美浜区基幹 石野氏：

拠点の方に関しては参加の表明はされていたが、昨日急遽面談が入り参加が難しいなどのお話もありましたので、案内の遅さと予定と出席方法の多様性などが原因かと思いますので次回の参考にしていただければと思います。

中央区基幹：伊藤氏

感染状況もあるのですが、対面でも2時間はきつくて、オンラインでも議題検討が難しいと感じていてオンラインなら書面とオンラインが良いのかなということと、11月25日が次回なので、案内だけはこの場でさせていただいて、開催方法は会場とっても良いかということはサービス課と相談になりますが、多くの方に意見をもらえる環境をつくらなければと思っています。感染状況を見て、千葉市の方と相談し案内したい。広くご意見を頂けるように準備をしたいと思っています。

美浜区基幹 石野氏：

それでは本日はこれで終了とさせていただきます。円滑な会議の運営にご協力をいただき、ありがとうございました。